

白井市令和8年度当初予算 特集号

— 第6次総合計画の初年度予算をどう見るか —

白井市議会議員 広沢しゅうじ

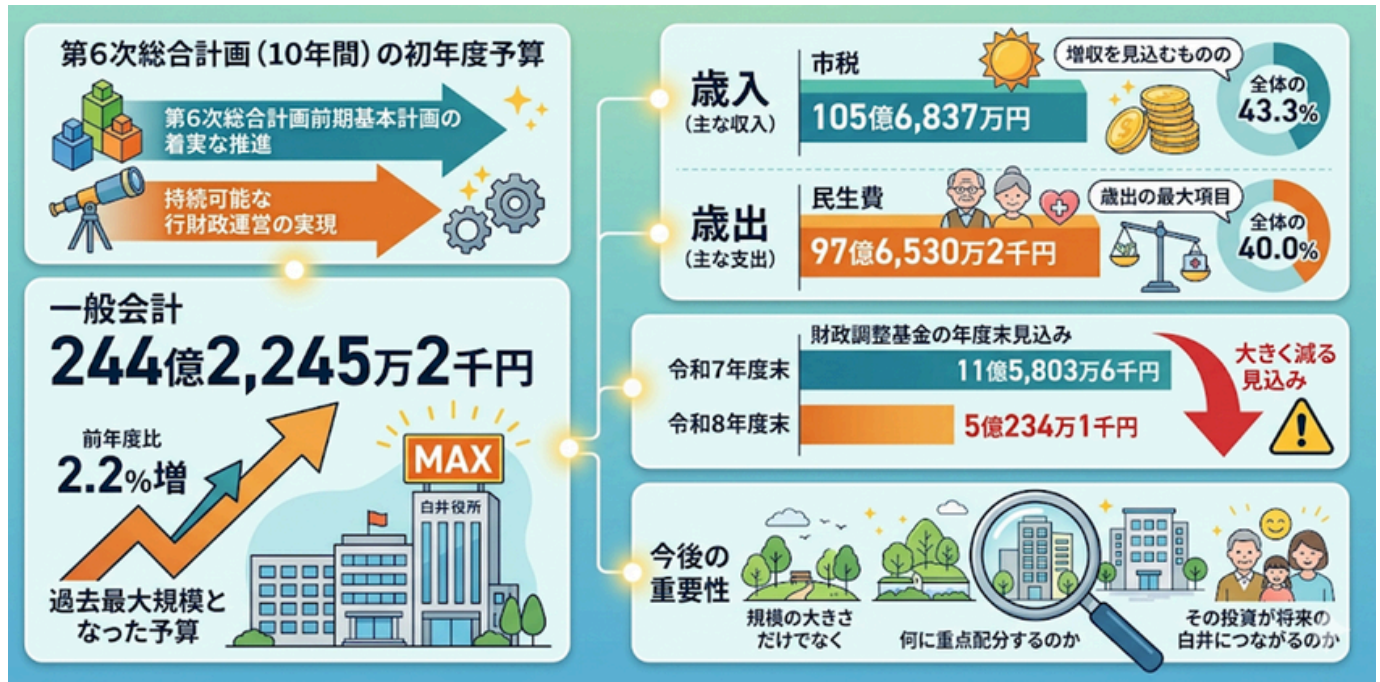


賛成全員により可決

令和8年3月発行

令和8年度当初予算は、第6次総合計画(計画期間:10年間)の初年度予算です。市はこれを「第6次総合計画前期基本計画の着実な推進」と「持続可能な行財政運営の実現」に向けた予算と位置付けています。

一般会計は244億2,245万2千円で、前年度比2.2%増の過去最大規模となりました。



一方で、市税は105億6,837万円(構成比43.3%)と増収を見込むものの、歳出では民生費が97億6,530万2千円(構成比40.0%)と最大であり、財政調整基金の年度末見込みは令和7年度の11億5,803万6千円から令和8年度は5億234万1千円へと大きく減る見込みです。

➡ 規模の大きさだけでなく、将来の白井につながる投資かを見極める必要があります。

第6次総合計画の初年度予算をどう見るか

ポイント① 市民生活の安心と移動を支える基盤整備

安心して暮らせるまちは、道路や移動環境、生活基盤の着実な整備によって支えられます。今回の予算では、インフラの維持修繕のほか、「地域公共交通の再編検討」のための予算4,027万4千円や、「地域共助型交通運行の支援」として1,097万1千円の予算が計上されました。道路だけでなく、移動手段そのものをどう確保するかまで視野に入った構成になっている点は重要です。

裏面もご覧ください➡

ポイント②

白井の活力を生む産業基盤の構築

暮らしを守り続けるには、白井の中で新たな活力を生み、将来の財源を支える土台づくりも必要です。

- ▶ 「生産性向上道路整備事業」では、白井工業団地のアクセス道路に加え、二重川沿い道路の整備推進が示されました。
- ▶ 「農地集約化等の促進」として、農業法人等の誘致を推進する方針が示されました。
- ▶ データセンターをはじめとする企業立地の推進は、白井の持続可能な発展を支える重要な柱です。

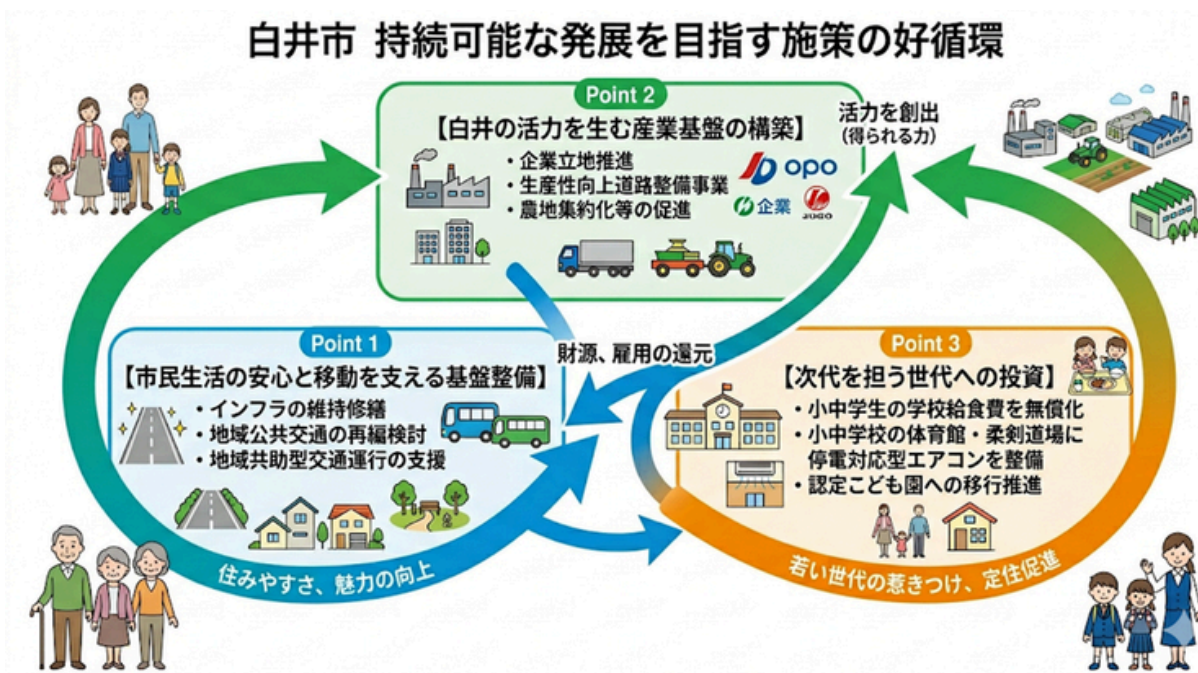
ポイント③

次代を担う世代への投資

若い世代に選ばれるまちであり続けるためには、家計負担の軽減と、安心して学び育つ環境づくりの両方が必要です。

- ▶ 小中学生の学校給食費を無償化する内容が盛り込まれました。
- ▶ 市内全ての小中学校の体育館・柔剣道場に停電対応型エアコンを整備する計画が盛り込まれました。(令和9年2月整備完了見込み)
- ▶ 認定こども園への移行推進、インクルーシブ保育(幼児教育)の推進などの予算が計上されました。

➡ 産業基盤の構築で財源を生む基盤をつくり、市民生活の安心や次世代への投資に還元



二重川地区の取組が形に — 地域が動き、市が支え、予算が後押し —

今回の予算には、令和2年から約6年間、地域住民の皆様が主体となって進めてこられた「二重川地区の道路と農業分野の企業誘致」が明確に反映されました。「農と共生しながら地域経済を育て、白井の将来を支える土台をつくる。」この方向性を、私はこれからも大切にまいります。

結びに代えて

予算は成立して終わりではありません。実際に市民生活の向上や将来の財源確保に結びつのか、議会の場で今後も丁寧に確認してまいります。

広沢しゅうじHPはこちら↓

予算を『分・効・続』の3つの視点で分析し
論考をnoteに綴っています。こちら→

